



2014年度一般会計予算他3議案に反対

消費税ごまかしの「臨時福祉・子育て給付金」「大企業優遇策」に反対討論

日本共産党米原市議団では3月24日の定例会最終日、常任委員会採決で賛否が分かれた8議案（議案5件、意見書3件）について、本会議で討論を行い採決の結果、議案5件については原案可決、共産党議員団提出の意見書3件は否決となりました。2014一般会計予算については、反対討論を清水議員が行いました。反対討論の要旨は次のとおりです。

①平成26年4月から消費税が8%に引き上がることに伴い、所得の低い方への影響を考慮した臨時福祉給付金が1人当たり1万円、一部高齢者や障害者、児童扶養手当受給者には5千円の加算金が増えられます。また児童手当給付世帯対象に1人1万円支給される子育て世帯臨時特別給付金が計上されています。過去の議会で、消費税増税に賛成された議員の討論で「低所得者には手厚い対応がされている」と言われましたが、たった一度きりの給付金で、今後続く増税による物価高に、喜べるでしょうか。消費税の増税さえしなければ、こんな無駄な事業はする必要がなく、もっとも愚かな策としか言いようがありません。

②米原南工業団地に進出しているサカタインクス社に対して大規模企業立地促進助成金として、3年間、年5千万円、合計1億5千万円が交付されます。合わせて工場設置促進奨励金・固定資産の3年間課税免除と、2重の支援制度になっています。なぜ体力のある大企業に特別待遇をするのか私どもはこの制度を認めるわけには参りません。賛成される方は、他の自治体と比較して特別支援制度があるから、わが町へ進出してくれたのだと良く言われます。はたしてそうでしょうか。進出企業の絶対的条件は、交通の利便性・消費地に近いこと・何よりも商いがしやすい場所・利潤が生み出しやすい場所を選ぶのです。このことは海外へ進出している企業を見れば一目瞭然です。

③米原駅東部土地区画整理事業ですが、バブルが弾け、リーマンショックを経験するなかで年を追うごとに、経済がしほみがちとなり、庶民の所得も増えなくなると、人口が減り始めたこと。いわば、事業を進める上でマイナス条件ばかりが増えていきます。私どもはこの事業には無理があるとして事業そのものには反対を貫いてきました。しかし、事業は進行中です。提議案も、部分的には賛成もしてきました。今日に至っては、保留地の解決に格段の努力をしていただきたいとしか言いようがありません。

④庁舎等整備検討事業に8,708千円計上されていますが、昨年12議会の庁舎等整備検討委員会条例制定に反対したとき申し上げたように、現在の分庁舎方式を支持される市民が多いと判断でき、検討は時期尚早であると思っています。ところが予算措置までされたことは、私どもの主張が聞き入れられなかったものとし、認めるわけには参りません。

⑤人権対策推進事業の件ですが、「特別措置法」が終結して12年を迎えているのだから、今までやって来た事業の成果を総括し、不足しているというのであれば、いつまでに解決するといった目標を示して終了時期を明確にすべきです。人権施設管理運営事業については、事業内容がほとんど変わっていないにもかかわらず、予算額が増加していることも腑に落ちません。そして、人権総合センター・ソーシャルキャピタルプラザは、米原市全体の人権センターとしての役割を担っているのだから、人権政策課の機関として職員を配置をし、指定管理を廃止する。そして、他の2つの施設は自治会へ移管するぐらいの大胆な改革をやるべきです。以上、5点を指摘して反対討論いたします。

常任委員会で賛否が分かれた案件（詳細については次号でお知らせします。）

①2014年度米原市一般会計予算（原案可決）②2014年度米原駅東部土地区画整理事業特別会計予算（原案可決）③米原市長の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例（副市長・教育長の報酬を2割削減するもの）（原案可決）④米原市工場等誘致条例の一部を改正する条例（原案可決）⑤市道の路線認定（原案可決）。

以上の案件に対して日本共産党米原市議団は③は賛成し、それ以外は反対しました。共産党市議団で提出した意見書は①集団的自衛権容認答弁に反対し、特定秘密保護法の廃止を求める意見書②「医療・介護確保法案」の撤回を求める意見書③TPP・日本の国益を守る交渉を求める意見書はいずれも否決されました。

議員個人の議案に対する賛否結果や代表質問、一般質問の動画については米原市ホームページの市議会のサイトに掲載されていますので、ご覧下さい。

皆さん。4月をどのように迎えられましたか。本来ですと、桜のつぼみが膨らみ、入学式、入社式と心うきうきとする春ですが、今年の春は腹立たしい春です。消費税は上がり、年金は下り、医療費は上がる。秘密保護法。集団的自衛権。原発再稼働。安倍政権、早く倒れてほしいと望む毎日です。

清水隆徳

